第３学年　道徳科学習指導案（ユニット）

１　単元名　　がんばるって何だろう（10時間完了）

２　構　想

（１）子どもの実態とねらい

　人間としてよりよく生きるためには、夢や目標をもって努力することが大切である。しかし、夢や目標にすぐ到達できるとは限らない。本当にできるのか不安になり、苦しさから逃げたくなる弱い心が出てくる。でも、それを乗り越えて目標を達成できたとき、大きな喜びと自分に対する自信が得られるのである。自分の弱い心に打ち勝ち、粘り強くやり遂げようとする強い心を養うことは、たくましく生き抜く心を育て高めるために重要である。

この時期の児童は興味関心も多方面に広がり、いろいろなことに積極的に取り組んでいく。３年生になった本学級では、低学年の頃とは違い、学年が上がったことを自覚し、自分で考え行動できる児童が増えてきた。係の仕事では、自分に与えられた役割だけではなく、他にもできることはないかと考え、進んで仕事を探し、クラスのために頑張ろうとする姿がうかがえる。しかし、ちょっとした困難やつまずきがあると、途中であきらめてしまったり、やめてしまったりすることも多い。

そこで、自分がやらなければならないことだけではなく、更に自主性を発揮し、自分でやろうとした目標に向かって強い意志をもって、粘り強くやり遂げる精神を育てたい。そのためには、自分自身の努力だけでなく、家族や教師など、周りの人の励ましや賞賛があることに気づかせたい。そして、周りの人と励まし合ったり支え合ったりしながら、目標に向かって粘り強く努力しようとする態度を育てていきたい。

（２）単元計画

・鉄棒の逆上がりに挑戦し、道徳教材の内容を実体験として身近なものにする。

⑤　学校での生活　　　　　　　　　　　　随時

③　学校での生活　　　　　　　　　　　　随時

①　鉄棒運動（体育）　　　　　　　　　　　　6

②　｢さか上がり｣（道徳）　　　　　　 1（本時）

③-1　学芸会練習　　　　　　　　　 　　随時

③-2　学芸会「とべないホタル」（行事） 　　1

⑤-3　かけ足タイム　　　　　　　　　　 随時

⑤-4　マラソン大会（行事）　　　　　　　　1

④ 「てつの人」（道徳）　　　　　　　　 　　1

・Ａ　希望と勇気、努力と強い意志

・頑張ることはあきらめないこと。あきらめないために必要なことを考える。

・学芸会に向けての歌練習やリコーダー練習で、うまくいかなくてもあきらめないために必要なことを明確にして取り組む。

・Ａ　希望と勇気、努力と強い意志

・将来の自分の姿を想像しながら考えることで、目標に近づくために頑張り続けようとする意欲を高める。

・マラソン大会に向けて、日々のかけ足タイムで、自分の目標を決め、友だちの励ましや競争心をもとに、あきらめずに走り続ける。

３　本時の学習指導

1. 教材　　「さか上がり」（Ａ　希望と勇気、努力と強い意志）

出典　　「明るい心」（愛知県教育振興会）

（２）教材について

本教材は、逆上がりができない知子が、手にまめができるほど練習を頑張るが、思うようにできない。きっとできるようになってみせるという固い意志のもと、家へ帰ってからも近所の公園で一人練習を行うが、やはりできない。まめがつぶれてしまい、ぼう然としているところへ、心配した母親が様子を見に来て、知子は練習を続けるかどうかという話である。本来は、母親が様子を見に来た時に、もう一度だけ挑戦し、逆上がりを成功させる話であるが、本時では、最後の結末を使わずに、母親の声かけまでを教材として扱う。そうすることで、結果を意識することなく、逆上がりに対して過去の経験や体育での活動を想起し、頑張り続けるためには、どうしたらよいかを焦点化できると考える。子どもたちが多様な考えを出す中で、頑張ることはあきらめないことであることに気づき、努力を続けようとする気持ちを高めるようにしたい。そして、努力を継続するために必要なことについて、明確な考えをもち、実践していこうとする態度を養いたい。

（３）豊かな心とたくましさを育むための手だて

　①かかわり合うための心を育てるために

・問題解決型の授業展開

教材範読後に、「今の話を聞いてどう思いましたか」と問い、知子があきらめずに続けたことに注目できるようにする。そして、「どうして知子が続けられたのだろう」を中心発問とする。子どもの問題意識を大切にした授業展開にすることで、自分の思いを伝えたい、友達の意見を聞きたいと思いが高まり、話し合い活動が活発になると考える。自分の意見と友達の意見を比べたり、さらによい考えを話し合ったりすることで、かかわり合いを深めていきたい。

②かかわり合うための技を育てるために

・他教科との関連づけ（フレンドシップユニット）

　　体育科の鉄棒運動を通して、鉄棒運動が得意で積極的に活動する児童や、苦手意識が強く、思うようにいかないことから消極的な姿を見せる児童がいる。その中で、様々な技ができたりできなかったりすることや、手や腰などの痛みを実体験としてとらえるであろう。しかし、そこからあきらめないためには何が必要であるか気づく児童は少ないと考える。まずは、直近の鉄棒運動での実体験を踏まえながら、道徳科で「さか上がり」を扱う。知子が悩み頑張る様子と自分の実体験を照らし合わせることで、高められた価値観をより確かなものにしたい。さらに、学芸会やマラソン大会を意図的に関連させたり、道徳科「てつの人」で将来の姿を考えたりすることで、努力し続けようとする意欲を高めたり、実践したりする場を設けたい。

　③個を見つめ、伸ばす評価をするために

・事前アンケートと日ごろの生活をもとに

　　　授業の前に、「今がんばっていること」に関するアンケート調査を行う。その結果をもとに、「希望と勇気、努力と強い意志」に対する意識を高めたい児童を抽出児に設定し、変容を追う。授業後の生活や行事から、できるようになったことを認めたり、違う教材を用いて同じ内容項目の授業を行ったりして、苦手なことや時間のかかることに対してあきらめずに頑張り続けることができるようにしたい。

（４）本時の目標

　①主人公が、逆上がりができるように頑張る姿から、目標に向かって粘り強くやり抜くために必要なことに気づくことができる。

　②自分で立てた目標に向かって、最後まであきらめずに挑戦しようとする態度を育てる。

（５）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段　階 | 児童の活動 | 教師の活動 |
| 導　入  （5）  展　開  （35）  整　理  (5) | １　今頑張り続けていることはありますか。  ・学芸会の木琴→苦手だけど本番で失敗したくない。  ・図工→作ることが楽しい。  ・サッカー→試合に出たい。勝ちたい。  ・勉強→できるようになるとうれしい。  ２　頑張るということについて考えよう  ３　今の話を聞いてどう思いましたか。  ・あきらめずに練習してすごい。  ・自分も逆上がりが苦手だから、これから練習したい。  ４　どうして知子は続けられたんだろう。  〈励まし〉  ・先生や友達の励ましがあったから。  ・友達のアドバイスを思い出しながら頑張ったから。  ・勇気がわいたから。  〈悔しい〉  ・悔しい気持ちがあったから。  ・負けたくないから。→自分に、友達に  ・できないままでは恥ずかしいから。  〈できるようになりたい〉  ・逆上がりをしたい気持ちがどんどん出てきたから。  ・頑張り続ければいつかできるようになると信じていたから。  ・もうちょっとだけ頑張れば、できるかもしれないと思ったから。  ５　自分が同じような立場だったら、どのように考えて頑張るかな。  ・できるようになるために、どんなに手が痛くても、悲しくてあきらめずに練習を続ける  ・応援したり支えたりしてくれた人たちに、できたことで恩返しをする。  ・ぜったいにみんなと同じようにできるようになる。  ・友達にばかにされたくない。  ・できたときに思いっきり喜びたい。  ６　自分が今頑張っていることについてどう思いますか。  ・何度失敗しても、頑張ったことが周りの人への恩返しになるから、まめができてもやり続ける。  ・自分が決めた目標に向かって、何度失敗してもあきらめない。  ・学芸会で、見に来てくれた人たちに最高の演技を見せることができるように、先生に言われたことを頭に入れて、台本にメモをして練習する。 | ・事前アンケートをとり、児童の実態を把握して、返却しておく。  ・苦手なことを頑張っていることが出なければ、意図的指名をして意見を求めた後に範読に入る。  ・子どもたちが安心して発言できるように、同じ意見でも認め取り上げる。  ・座席は、コの字型にしておく。  ・場面絵を提示しながら、教材の語り聞かせをする。  ・語り聞かせながら、子どもたちの表情を確認し、必要に応じて補説を加える。  ・子どもたちが、あきらめずに頑張り続けている主人公の姿に注目していることを確認し、中心発問につなげる。（手だて①）  ・発問した後に、教材を配付して再び範読する。  ・意図的指名や板書の参考にするため、「Ａ励ましがある」「Ｂ悔しい」「Ｃできるようになりたい」に分け、児童の意見を把握して座席表に記入する。  ・考えが似ている点や相違点を明確にするため、「励まし」「悔しい」「できるようになりたい」に分けて板書し、お互いの考えがつながったり、相反したりするときには、線や矢印で結ぶ。  ・頑張り続けるための原動力となる考えが明確になるように「アドバイスや励ましがないと頑張れないのかな」などと補助発問や問い返しをする。  ・板書を振り返り、頑張るための原動力がいろいろあることを確認して、活動５につなげるようにする。  ・考えつかない児童には、黒板の意見を参考にして、どの意見なら自分にもできそうかを考えるように助言する。  ・鉄棒が得意な児童には、苦手なものについても挑戦し続けられるか問いかける。  ・自分が頑張っていることについて話すなど、自分事としてとらえている発言をした児童を称賛する。  ・必要に応じで、そのように頑張り続けた結果、どうなると思うかを問い返す。  ・アンケートに書いた内容について、今の自分やこれからの自分の姿に対して具体的に書くように助言する。（手だて②）  ・今頑張っていることがない児童は、事前のアンケートを参考に、これから頑張りたいことで書くように助言する。  ・数名の児童を指名し、学芸会やマラソン大会など、これから先のことについて発表した児童を称賛する。 |

（６）　評　価

①　あきらめないための原動力となるものを具体的に考えることで、あきらめないために何が必要か具体的な考えをもつことができたか。（活動４・５の発言、ワークシートから）

②　周りの励ましに応えようとしたり、絶対にあきらめないという強い意志をもったりすることで、あきらめずに挑戦する気持ちを高めることができたか。（活動５・６の発言、ノートから）

（７）板書計画

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　今がんばっていること

今がんばっていること　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 これからがんばりたいこと

・学芸会キーボード ・たくさん練習して

→ひけないといやだ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・家でいっぱい練習

・学芸会小だいこ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・はげましてくれるから、

→自分で決めたこと　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 あきらめずにがんばる

・平泳ぎ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・一人でとぶ練習をしてあ

→次のテストでごうかく　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 きらめずに何度も練習す

・右ききにできるように　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 る

→左ききだから　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・自分が決めた目標に向か

って、何度失敗してもあ

きらめない。

○おうえんやはげまし　　　　　　　　○くやしい

・先生や友だちのこつやはげましを　　・くやしい気持ちが少しずつ

　思い出せた。　　　　　　　　　　　　出てきた。

・おうえんしたりささえてくれたり　　・ちょうせんしなかったら、

　した人たちにもうしわけない。　　　　自分が負けるだけだから

○できるようになりたい

・さか上がりしたい気持ちがどんどん出てきた。

・あきらめずにつづければ、ぜったいにできるようになる。

どうして知子はつづけられたんだろう

（８）教　材

